



文面
幕面



⑨ 假令は Massudi, *Les Prairies d'Or* I, p. 288 に見ゆるが如し、なほ九世紀の著者につきては本文次に記する所を参照。

此の名は亞刺比亞文字にて書ける書に類々として存する例の如く、文字に付せる點の打ち方の誤寫の爲に種々に書かれ、Jaubert 氏の用ゐたる Edrisi の地理書の原本にも *Br̄r̄r̄* となり居れど、別本には *taryarar* と見え、また他の地理書には

⑩ *Tarazraz* と記されたりと云く (Jaubert, *Géographie d'Edrisi*, p. 490) *muq qe qanz / asaganis / aspanoqanz dir̄*

⑪ Reinaud, *Géographie d'Aboulfeda*, Introduction, p. CCCLX.

⑫ Barthold, *Zur Geschichte des Christentums in Mittel-Asien*, S. 32, Note 1.

⑬ Tabari によれば回曆二〇五年 (西紀 820-821) に *Osruschna* の領主より其の地に招かれたるトルコ族を明らかに *tyzuz* = *turyuzuz* 即ち *Toquz Oruz* と記せり (Barthold, *Die alt. Inschr. u. d. arab. Quellen* S. 28) *Tabari* の書の成り

しは西紀九一四年なれば、此の名は其の當時に於る著者の知識を以て名けたるものなるか、或は既に此の事件の起りし頃此の名が亞刺比亞人に知られしものか確かならざれども、若し後の場合なりとすれば、回鶻が西方に遷りしより以前に於て、此の名は彼等の間に傳はりしものといはざる可らず、此の年は回鶻にては保義可汗治世の末年に當れり、而して彼の *Kara Balgassun* の回鶻可汗紀功碑は、實に主として此の可汗の功を記せるものなるが、碑文の末に近く第 XVII 行目に「天可汗躬惣師旅大敗賊□奔逐至眞珠河」と見え、又第 XX 行には「攻伐葛祿吐蕃舉旗斬馘追奔逐北西至拔賀那國」と見ゆ、されば八二〇—八二一年に *Osruschna* 侯に招かれて兵を進めたるものが此の可汗に屬する軍なりしと見得ざる迄も、少くと